

LF Japan Community Days: OSSガバナンストラック

OSS戦略を支える“OSPO人材”の育成

IPA発の支援プログラム「OSPOLレベル1構築ワークショップ」

2025/10/22

独立行政法人情報処理推進機構

デジタル基盤センター デジタルエンジニアリング部

ソフトウェアエンジニアリンググループ

今村 かずき



ライセンス表示 License



この資料は、独立行政法人情報処理推進機構により作成され、2025年に公開されました。

本資料の本文（テキストおよび当機構作成の図表等）は [Creative Commons 表示 4.0 国際ライセンス](#) の下で提供されています。ただし、以下の素材については、本文ライセンスとは別に、各権利者が定めるライセンス条件が適用されます。

- CC BY-NC 2.5 素材
 - 商用利用不可
 - 改変可（ただし商用不可）

国際版 <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>

各素材を再利用する際は、それぞれのライセンス条件をご確認ください。

特に、CC BY-NC 2.5 素材については、バージョンおよび準拠法にご留意ください。

This document was created by the Information-technology Promotion Agency, Japan (IPA) and published in 2025.

The main text of this document (including text and charts created by IPA) is provided under the [Creative Commons Attribution 4.0 International License](#).

However, the following materials are subject to license terms specified by their respective rights holders, separate from the main text license.

- CC BY-NC 2.5 Material
 - Commercial use prohibited
 - Modification permitted (but not for commercial use)

International version <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>

When reusing any material, please check the respective license terms.

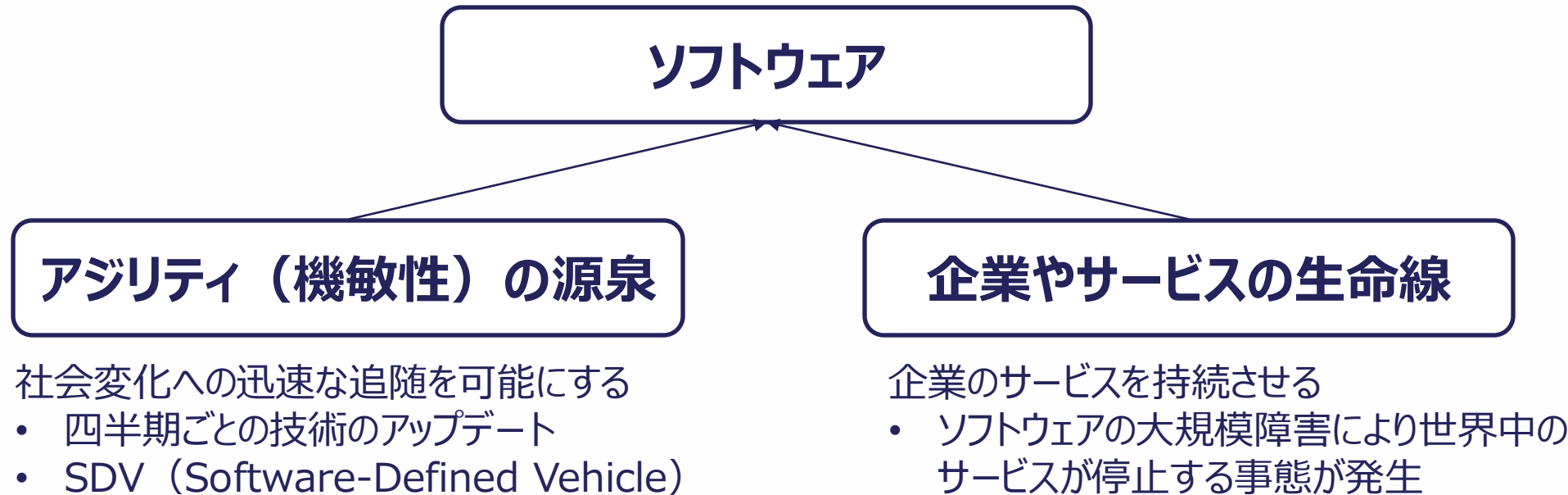
Particular attention should be paid to the version and governing law for CC BY-NC 2.5 materials.

1. 背景と課題
2. IPAのチャレンジ—OSPO人材の育成
3. 「OSPOレベル1構築ワークショップ」について
4. 今後の展望—OSSを“個人頼み”から“組織文化”へ

1. 背景と課題
2. IPAのチャレンジ—OSPO人材の育成
3. 「OSPOレベル1構築ワークショップ」について
4. 今後の展望—OSSを“個人頼み”から“組織文化”へ

ソフトウェアの重要性の高まり

- ◆ スマートフォンや家庭電化製品等、社会の多くのサービスがソフトウェアにより実現されている。
- ◆ ソフトウェアは今や社会の欠かせないインフラになっている。



OSSは技術主権と社会の安定を支える基盤であるが...

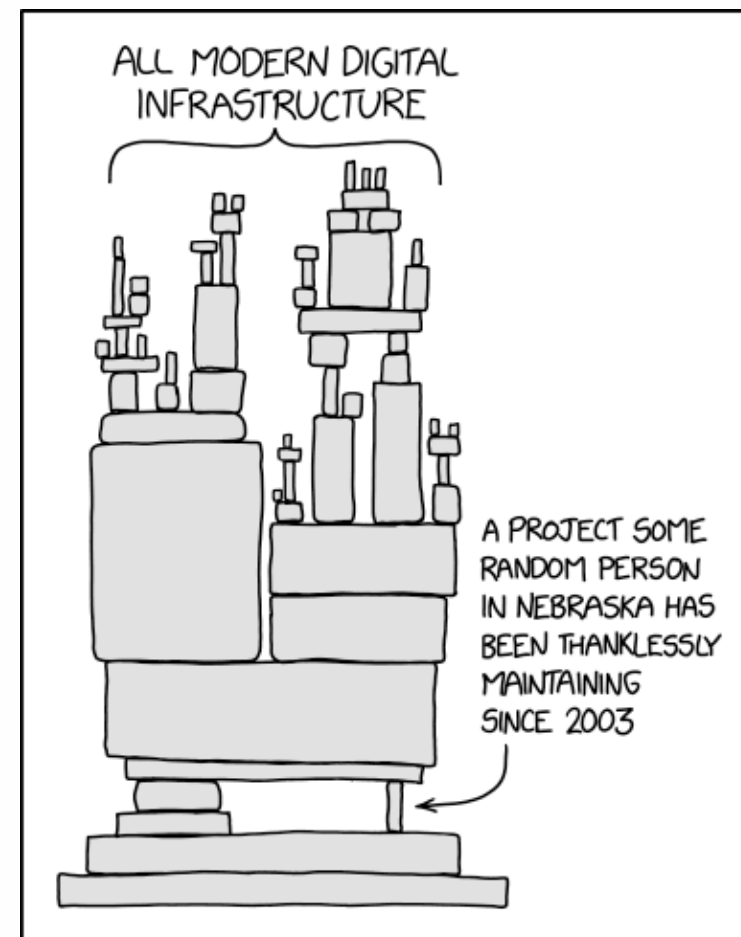
地政学的な不確実性や技術供給網の不安定化が、ソフトウェアやクラウドサービスの持続利用に影響を及ぼしつつある。

特定企業・特定国への依存は、**突然の値上げ・障害・サービス停止**といったリスクを伴う。

OSSは依存構造を緩和し、自律的に技術を維持し制御するための共通基盤。

しかし近年、**世界的にOSSプロジェクトやコミュニティの持続性が危ぶまれている。**

- 人材・資金・運営体制の脆弱化
- 政策・市場環境の変化による影響
- 社会インフラを支えるOSSへの過剰な負担



画像 : "Dependency" by xkcd is marked with CC BY-NC 2.5.
To view the terms, visit <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.5/>.

2024年度ソフトウェア動向調査から明らかになった課題

- ◆ OSSを「使うだけ」の状況から脱却できていない
- ◆ OSSに関するポリシー・体制が未整備
- ◆ ビルディングブロック型開発への転換が進んでいない
- ◆ 教育・人材育成の体系が未整備

回答データと考察は
IPA公式ウェブサイト
に掲載

企業の8割以上がOSSに関するガバナンス体制を持っていない。

OSSコミュニティへの組織的貢献や、育て手としての関わりもほとんど見られない。

心理的・文化的なバイアス

昨年11月、Code for Japan Summit 2024内セッションのリアルタイムアンケートにて**OSSに関する先入観**について尋ねた際に得られた回答の一部を抜粋


「セキュリティが低い」「品質が担保されない」 

「責任の所在が不明確」 

「OSS は無料で儲からない」 

「関わっても対価が得られない」

「英語が多く、敷居が高い」 

「どこから始めればよいかわからない」 

1. 背景と課題
2. IPAのチャレンジ—OSPO人材の育成
3. 「OSPOレベル1構築ワークショップ」について
4. 今後の展望—OSSを“個人頼み”から“組織文化”へ

「オープンソース人材」とは

大きく分けて以下の2タイプがあるとみられる。

1. OSSのソースコードを改変したりエンジニアリングができる人材
2. OSSのコンプライアンス等、組織におけるOSSに係るガバナンスを担える人材

IPAオープンソース推進では「2」すなわち「OSPO*人材」に特化する。

IPAは日本社会全体のOSSへの参加力・活用力を底上げするための中核的な推進主体としての役割を果たすべく、OSPO人材の育成に着手する。

育成プランの主な柱

- ◆ 初心者がステップアップしていくプロセスに伴走する
- ◆ 課題を共有・相談し合える場を提供する

*OSPO(Open Source Program Office): 企業や組織において、OSSを効果的かつ安全に活用し、管理し、貢献するための専門部署やチームのこと。

OSS取り組みレベルからみたターゲットの考察

「OSPOの4つのステージ」 (by The Linux Foundation TODO Group)

- ◆ 国内企業はほとんどが**Stage1未満かつOSPO Level low**と予想。
- ◆ OSPOが存在する先端的な企業でも、プロジェクト単位などの限定的な機能にとどまっていると思われる。



1. 背景と課題
2. IPAのチャレンジ—OSPO人材の育成
3. 「OSPOレベル1構築ワークショップ」について
4. 今後の展望—OSSを“個人頼み”から“組織文化”へ

「OSPOLレベル1構築ワークショップ」とは

- ◆ 企業がOSSを「安心して使う」ための社内体制、すなわち「OSPOLレベル1の状態」を整えることを目指す。
- ◆ 単に答えを教えるのではなく、参加者自身が考え、自社に最適なOSS活用推進の考え方を習得し、具体的なドキュメント作成に繋げる実践的なプログラム。

The Linux Foundation
TODO Groupが協力

THANK
YOU



「レベル1」とは

企業としてOSSがビジネス戦略及びテクノロジー戦略の重要な部分であることを認識し、OSPPOを組織する段階に到達することを意味する。

それはすなわち、“はじめの一步”

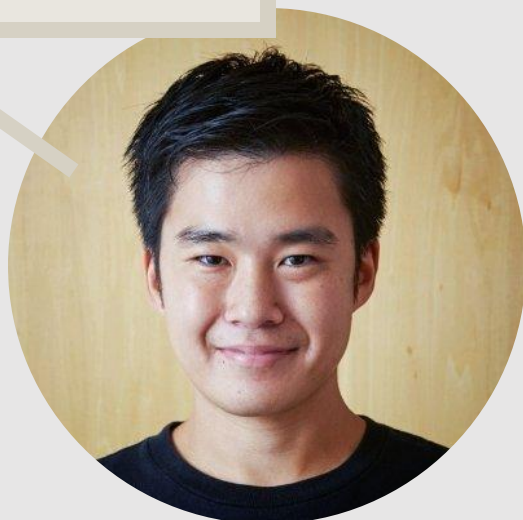
- ◆ OSSの社内活用や管理に**初めて取り組む方**、または**これから体制を整備したい**と考えている方
- ◆ OSSの利活用を推進したいが、**何から手をつければ良いか分からない担当者やリーダー層**
- ◆ OSPOの概念や、社内におけるその役割について、**基礎から実践的に学びたい方**
- ◆ **OSSに関する専門知識は現在不十分でも**、自社のOSS推進に意欲的に貢献したいと考えている方
- ◆ **他社の事例や考え方を参考にしながら**、自社独自の推進計画を具体的に描きたい方

IPAオープンソース推進チームの紹介

IPA専門委員

服部 佑樹

GitHub Japan Customer Success /
Sr. Architect, The InnerSource
Commons Foundation President



IPA専門委員

渡邊 歩

株式会社日立ソリューションズ シニア
OSSスペシャリスト・日立OSPOメンバー
／The Linux Foundation Japanエバン
ジェリスト

IPA専門委員

ガオリユウ

Dialogue Design



1. 「OSPOスターキット」を提供

- 組織がOSSに取り組む際に必要になるポリシーやガイドライン等ドキュメントのテンプレート集を提供

2. テンプレート項目内容の講義とパネルディスカッション

- 自社に合わせた調整ポイント（テーラリングポイント）を講義形式で解説
- 有識者から具体的なアドバイスや実体験を伺う

3. テンプレート埋め込みワーク

4. 次回のワークショップまでの具体的な活動（宿題）をアウトプット

2026年3月、ワークショップで使用した「OSPOスターターキット」と「ワークブック」を公開予定

- ◆ ワークショップ時には敢えて完成版を用意しない
- ◆ 参加者とともに育てていく仕組み
- ◆ 公開後も継続的にアップデート



IPAとしても初の試みでは！？

先行しているOSPOや従来のOSSコミュニティに既に溜まっている知見を盛り込みたいと思っています。

みなさんぜひレビュー & 改善にご協力ください！

組織がOSPOを立ち上げる際のテンプレート群とガイドラインを提供

各企業が自社に合わせてカスタマイズしながら導入できるように設計

おすすめポイント

- ◆ 「共通の正解」はないことを前提に、抽象度をコントロールした汎用テンプレート
- ◆ “走りながら考える”ことを支援
- ◆ 継続的アップデートと共創を重視
- ◆ 国内OSPO事例の共有を促進



1. テンプレート（PDF＋Webサイト形式）

- OSPO立ち上げに必要な基本構成を提示
- 静的サイトとしてWeb上で参照可能
- オープンソースで提供

2. ガイダンス／ガイドライン

- OSPO担当者がどのような観点で進めるべきかを解説
- 社内ステークホルダー（IT管理者、知財担当、開発部門など）との連携の仕方を整理



OSPOスターキットを前に、実際に自社で 考え適用するための思考と対話の補助ツール

OSSやOSPOに不慣れな担当者でも、段階的に
自社の現状を整理し、方針を言語化できるよう設計

★おすすめポイント

- ◆ 「知らない・わからない」もOKな設計
- ◆ 対話を通じて現場理解を促進
- ◆ 反復型・共創型のプロセス
- ◆ ブラッシュアップを前提とした“共に作る教材”

第1章：カスタマイズポイントを自社の特性より検討する

第一段階：OSS活用の「種」をみつける

このワークでは、OSS活用について深く考えず、頭に浮かんだキーワードやイメージを書き出します。知らないことや分からないこと、考えたことがないことは「分からない」率直に書き出しましょう。1つの付箋に1キーワード、1文章で書きましょう。

1.1. あなたの会社はどんな会社ですか？

1.1.1. どんな製品やサービスを売っていますか？ ※複数ある場合は製品ごとに1-5

1.1.2. 誰がお客さんですか？

1.1.3. 会社の自慢できる場所は何ですか？

1.1.4. 会社が求める価値はどんなことですか？

1.1.5. どんな人が関わっていますか？

ワークブックより抜粋



第1段階：「種」を見つけるワーク

- 深く考えすぎず、思いつくままキーワードを書き出す
- 自社の特徴（事業内容・顧客・価値観など）を可視化



第2段階：「言葉」にするワーク

- 書き出したキーワードを文章化し、OSS活用との関係を整理
- 「自社はなぜOSSを使うのか」を自分たちの言葉で語る
- OSPOスターターキットのテンプレートを埋める

第3段階：会社に戻って実践（宿題）

- 自社に持ち帰り、社内で試行・調整
- 次回のワークショップで再共有・改善を行う

1. 背景と課題
2. IPAのチャレンジ—OSPO人材の育成
3. 「OSPOレベル1構築ワークショップ」について
4. 今後の展望—OSSを“個人頼み”から“組織文化”へ

OSPO活動や人材をどう評価するか

このワークショップの“卒業生”は、自組織の中でOSPOの担い手として活動を広げていく。

活動が持続可能になるカギは「**OSPOやOSSに関わる人を組織はどう評価するか**」。

OSSへの貢献や社内文化の醸成は、短期的な売上やKPIでは測れないが、確実に企業力を高める活動であるはず。

今後検討すること

- OSPO活動を業務として正当に評価する仕組みづくり
- 貢献が見える化し、社内で共有する文化の醸成
- 組織を越えて学び合う“OSPOコミュニティ”の拡がり

OSSに参加し、育てる社会へ

OSSを“個人頼み”から“組織文化”へと変えていく、それが私たちIPAの次の挑戦です。



Japan Open Source Hub

OSSに参加し、育てる社会へ

Japan Open Source Hubは、オープンソースの価値をひらき、つながり、育てるための入り口です。OSSに触れるのが初めての方も、導入を進める方も、ここから次の一歩を見つけてください。

🔍 Search for
“IPA OSS”!

IPA